

セルプ水土舎を

訪ねて

026
8/15

知的障害者授産施設セルプ水土舎（金谷 透施設長）は、職業的社会的自立までを施設のどかな田園風景が広がる後、の目標に掲げている。同所には今、富岡近郊から同施設は重度者に対する日、の通所者と地域ホームグループで暮らす18歳以上者への授産（作業）活動支援 あつた作業で就労している。まで幅の広い活動を行つてお、作業内容は大別して3つあり、日常生活活動の自立から、中でもハム・ソーセージ

部は大手百貨店、レストランからの受注が多く、年商も飛躍的な伸びをみせ好調だ。また、ブルーベリーは60アールの畑に1000本の苗木が植えられていて、ジャムの製造販売と観光農園化を視野に水くれ、肥料やりの作業を行っている。また、養鶏（飼育数800羽）も行われ、卵の販売もある。これら商品は施設で販売もされる。

金谷施設長は知的障害者の自立について、「本人自身の選択や決定が尊重されるようでなければならぬ。他人の支援を受けても選択や決定の主体が知的障害を持つ本人に帰属している限りそれは自立で、本人の自立を生活訓練や

ブルーベリー 観光農園化



協力し合ってがんばっています

仲間

グループホーム開所



知的障害者授産施設セルプ水土舎（金谷透施設長）の地域ホーム（グループホーム）が南後箇に開所した。ここでは数人の知的障害者が一定の経済負担を負って共同生活しており、専任の世話人さんが日常生活の指導を行

いながら自立支援を行つている。取材したこの日、キッチンに集まつて談笑する彼らの姿はまさに家族そのもので、あたたかなふれあいを感じた。

世話人さんを
囲んで

から

富岡・甘楽ニュース 第391号

2002/12月1日

発行部数8,075部

と語された。詳細はセルプ水土舎 64-1254 金谷まで